気候変動に関する保証の未来

組織が気候リスクと責任を
管理する方法を変革する7つのトレンド

LRQA

ビジネスに影響を与える主なトレンド

気候変動に関する保証の状況は急速に進化しています。世界中の組織が、規制要件や利害関係者の期待に応える中で、新たな課題と機会に直面しています。ここでは、気候変動に関する保証の未来を形作り、業務、予算、優先順位に影響を与えている7つの新たなトレンドをご紹介します。

1 世界的な規制が強化されており、欧州が先導

2 利害関係者はESGの透明性と説明責任の向上を求めている

3 スキルの格差が信頼性のある気候報告の妨げに

4 テクノロジーは不可欠だが、ESGテック市場は過密状態

5 多くの組織で戦略と業務が連携していない

6 ネットゼロ目標は高いが、実際の進捗は不十分

7 スコープ3の脱炭素化はサプライチェーンの不透明性により停滞

世界的な規制が強化され、欧州が先導

気候変動に関する保証の状況は急速に変化しており、その中心にあるのが規制です。欧州では、企業サステナビリティ報告指令（CSRD）、炭素国境調整メカニズム（CBAM）、グリーン・クレーム指令案などの政策が先行しており、米国や中国など他の地域も急速に追随しています。こうした動きは、環境・社会的影響に関する報告のあり方を再構築しており、特にスコープ3排出量やダブル・マテリアリティに関する、検証された将来志向の開示への明確な転換が見られます。

EUのオムニバス法案は、サステナビリティを企業法にさらに深く統合しようとするものです。複数の既存指令を改正することで、一貫性の強化、実施の加速、そしてサステナビリティ報告に法的・財務的な重みを持たせることを目的としています。国境を越えて事業を展開する企業にとって、規制の期待はより複雑かつ連動性を増しており、ガバナンス、説明責任、リスク管理に大きな影響を与えています。

規制の変化を機会に変えるには

調査と準備を

多くの企業にとって、これらの要件を満たすには、システムや管理体制、パートナーシップの見直しが必要です。しかし、この変化は、信頼性を示し、利害関係者の信頼を高め、サステナビリティ戦略にレジリエンスを組み込む絶好の機会でもあります。早期に行動する企業は、欧州サステナビリティ報告基準（ESRS）やグローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）、その他進化する規制要件により良く適合できるでしょう。

先を見据えるには、要件の範囲だけでなく、その背後にある意図 - よりレジリエントで透明性があり、説明責任のある未来の創造 -を理解することが重要です。LRQAの支援により、企業はコンプライアンスを競争優位に変え、信頼性があり将来に備えた気候戦略を構築できます。

LRQAの規制排出スキームサービスをご覧ください。

> 規制の緊急性にもかかわらず、多くの組織は依然としてダブルマテリアリティへの対応が初期段階にあります。EU 企業の 4 分の 3 が対応を義務付けられている今、実行に移す時期が来ています。
>
> **アンドリュー・サヴィーニ**
> LRQA VP

利害関係者はESGの透明性と説明責任の向上を求めている

ESGデータの透明性は、もはや「あると良いもの」ではなく、バリューチェーン全体の利害関係者から求められる必須条件となっています。投資家、顧客、従業員、規制当局は、組織が気候関連リスクや影響をどのように管理しているかについて、より明確で一貫性のある情報を求めています。意思決定に役立つ高品質なデータを開示できるかどうかが、信頼性の重要な指標となっています。

この転換は、より広範な流れを反映しています。ESGのパフォーマンスは、今や事業のレジリエンスに不可欠な要素と見なされています。評判、資金調達、サプライチェーンとの関係は、企業が意図だけでなく、証拠に基づいた実際の進捗を示せるかどうかにますます依存しています。そのため、GRI、SBTi（科学的根拠に基づく目標イニシアティブ）、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）などの認知された枠組みに沿うこと、そしてESG開示が正確で完全かつ独立した保証を受けていることが求められています。

お問い合わせ

正確で保証されたデータによって信頼性を構築する

組織は、事後的なコンプライアンス対応から脱却し、より能動的かつ戦略的な報告アプローチを取る必要があります。つまり、堅牢なデータシステムの構築、社内連携の強化、そして報告期限間際だけでなく、年間を通じた一貫性の維持が求められます。独立した保証は、開示内容が利害関係者の期待や規制要件を確信を持って満たすための支えとなります。

LRQAは、準備状況の評価、インベントリ管理計画、国際基準に沿ったデータ検証を通じて、ESG報告の強化を支援しています。その結果、より信頼性が高く透明性のある報告が可能となり、長期的なビジネス目標の達成につながります。

検証・報告書の保証

> “データの透明性を確保し、初回の検証で修正の手間なく通過できるようにしましょう。”
>
> **ネヴィル・ディアス**
> LRQA グローバル検証員（米国）

スキルの格差が信頼性のある気候報告の妨げに

気候関連の情報開示に対する期待が高まる中、多くの組織が十分な準備ができていない状況にあります。サステナビリティ分野における世界的なスキルの格差が、正確なデータの収集、各種枠組みとの整合、そして外部による検証の実施を困難にしています。

ESG報告を担当する人材の多くが、進化し続ける要件に対応するためのトレーニングや人員を十分に持っていないのが現状です。これにより、進捗の遅れやミスのリスクが高まり、利害関係者からの厳しい目にさらされる可能性もあります。

社内の能力を高め、信頼性のある成果を実現する

この格差を埋めるには、単に人材を採用するだけでなく、社内での理解、当事者意識、説明責任を育てることが不可欠です。報告プロセスにおける自らの役割を明確に理解することで、データの一貫性と完全性が高まり、検証に向けた準備も整いやすくなります。

LRQAは、実践的なトレーニングとガイダンスを通じて、チームが現在の気候保証の要件に対応できるよう支援しています。

ESGおよび気候変動に関するトレーニングコースをご覧ください

トレーニングに関するお問い合わせ

> “BCGとマイクロソフトの調査によると、回答者の76%が「サステナビリティに関するスキルの未成熟さと急速な変化」に課題を感じており、フォーチュン100企業の取締役のうちESGの経験を持つのはわずか43%にとどまっています。”
>
> **アンドリュー・サヴィーニ**
> LRQA VP

テクノロジーは不可欠だが、ESGテック市場は過密状態

気候変動やESGに関する複雑なデータを管理するうえで、テクノロジーは極めて重要な役割を果たします。特に、スコープ3排出量の追跡、自動化された報告、データの正確性向上などにおいて有効です。しかし、ESG関連のプラットフォームやAIツールが急増したことで、市場は過密化し、選定が難しくなっています。

すべてのソリューションが保証を前提に設計されているわけではありません。中には信頼性に欠けるものや、第三者による検証を受けていないものもあり、既存のシステムへの統合に多大な労力を要するケースもあります。迅速な対応を迫られる中で、見た目の手軽さやスピード感に惹かれて導入したツールが、実際には厳密性に欠けるという事態も起こり得ます。

報告だけでなく保証を支えるツールを選ぶ

適切なテクノロジーは、サステナビリティ目標の達成を支援し、保証プロセスを簡素化するものであるべきです。そのためには、自社のニーズを明確にし、信頼できる提供元によるツールを検証し、必要に応じてシンプルで実績のある手法を見直すことも重要です。

LRQAは、保証の観点からESGテクノロジーの選定をサポートし、導入されるツールが目的に合致し、信頼性が高く、第三者による検証にも十分対応できることを確認します。

**どのようなサポートが可能か
お気軽にお問い合わせください。**

> “計算ツールが市場にあふれている今、パートナー選びには慎重さが求められます。”
>
> **デレク・マルコルフ**
> LRQA グローバル検証員（米国）

多くの組織で戦略と業務が連携していない

多くの組織では、気候変動に関する戦略は明確に策定されているものの、実際の業務との間にギャップが生じています。こうした「戦略と実行の乖離」は、役割や責任、データの取り扱いが社内で明確に定義されていない場合に特に顕著で、進捗を停滞させる要因となります。

サステナビリティ目標は、調達、サプライチェーン、財務、施設管理などの業務プロセスに組み込まれて初めて、実効性を持ちます。手順や連携が不明確なままでは、どれほど優れた戦略であっても、測定可能な成果にはつながりません。

LRQAが主催したフォーラムでは、参加企業の80%が「グリーンウォッシング（見せかけの環境配慮）リスクに対応するためのリソースや経営層の関与が不足している」と回答しています。

目標と日々の業務をつなげる

戦略と業務のギャップを埋めるには、データと保証の準備に対して、より体系的なアプローチが必要です。まずは、役割と責任を明確に定義した堅牢なインベントリ管理計画を策定することが重要です。報告期限直前ではなく、年間を通じて継続的に証拠を収集することで、検証の遅延を防ぎ、データの質も向上します。

記録は一貫して保管され、社内利用だけでなく第三者による保証にも対応できるよう、容易にアクセスできる状態にしておく必要があります。保証を日常業務に組み込むことで、データの整合性を確保し、リスクを最小限に抑え、気候目標を測定可能な成果へとつなげることができます。

LRQAは、保証を日々の業務に統合する取り組みを通じて、経営層から現場まで一貫した信頼性の構築を支援しています。

保証戦略と業務の連携について詳しく知りたい方は、ぜひお問い合わせください。

> GHG排出源ごとに、内部統制を含めた明確なデータ取得手順を定義しましょう。”
>
> **ベアトリス・エルバダ**
> LRQA グローバル検証員（スペイン）

ネットゼロの目標は高いが、実際の進捗は不十分

多くの組織が大胆なネットゼロ目標を掲げていますが、それを達成するための明確で実行可能な計画を持つ企業は限られています。コミットメントは増加しているものの、基準の不明確さ、オフセットへの過度な依存、長期的な排出削減への投資不足などにより、進捗が停滞しているのが現状です。

その結果、目標と実行の間に大きなギャップが生まれています。企業は進捗を報告していても、データの信頼性や実現可能な道筋が伴っていなければ、その主張は投資家、規制当局、そして一般からの厳しい目にさらされることになります。

> “保証を戦略的なサステナビリティ目標と連携させ、長期的な価値を創出します。”
>
> **エリサ・ガルバン**
> LRQA グローバル検証員（メキシコ）

ネットゼロとカーボンニュートラルの基準に沿って目標を整合させる

ネットゼロの目標を実現するには、科学的根拠に基づいた正確な排出量データと、明確なロードマップが不可欠です。ISO 14068、PAS 2060、GHGプロトコルなどの認知された枠組みに基づいて、進捗を測定・追跡する必要があります。特にスコープ1およびスコープ2の直接排出削減を優先し、オフセットの使用については、その透明性、恒久性、信頼性を慎重に評価することが求められます。

エネルギー効率の向上、再生可能エネルギーの導入、強固なガバナンス体制などが、よりレジリエントで検証可能な脱炭素戦略の構築に貢献します。LRQAは、今日の期待に応えるだけでなく、企業が掲げる長期的なコミットメントの実現を支える気候保証フレームワークの構築を支援しています。

検証サービスの詳細はこちらをご覧ください

スコープ3の脱炭素化は サプライチェーンの不透明性により停滞

多くの組織にとって、スコープ3排出量（バリューチェーン全体で発生する排出）は、カーボンフットプリントの中で最も大きな割合を占めています。しかし、これらの排出量の把握と削減は、気候保証における最大の課題の一つであり、その主な要因は、サプライヤーからのデータの可視性が低く、一貫性にも欠けることです。

正確なサプライヤーデータが得られない場合、企業は推定値や既定値に頼らざるを得ず、報告の信頼性が損なわれます。EUの炭素国境調整メカニズム（CBAM）などの規制が実排出量データを求める中で、サプライチェーンの透明性向上への圧力はますます高まっています。

> “強固なサプライヤーおよび利害関係者との連携は、信頼性のあるESG報告に不可欠です”
>
> **エリサ・ガルバン**
> LRQA グローバル検証員（メキシコ）

より良いデータのためにサプライヤーとの連携を強化する

スコープ3の脱炭素化を効果的に進めるには、サプライヤーとの積極的な協働が欠かせません。早い段階で関与を促し、期待を明確に伝え、データ収集の支援を行うことで、排出量報告の質を大きく向上させることができます。初期段階では支出ベースのデータを活用しつつ、可能な限り実排出量データの取得を目指すべきです。

製品単位のライフサイクルアセスメント（LCA）へのサプライヤーの参加を促し、ISO 14067などの規格に沿った取り組みを進めること、そしてデータ収集のプロセスを一貫して維持することが、スコープ3保証の強固な基盤を築く鍵となります。LRQAは、サプライヤーとの連携を保証戦略に組み込むことで、データの質を高め、検証の遅延を防ぎ、バリューチェーン全体のレジリエンスを強化する支援を行っています。

製品カーボンフットプリントに関するサービスの詳細はこちらをご覧ください

LRQAを選ぶ理由

組織のカーボンフットプリントの測定、製品排出量の検証、義務化された気候関連開示への対応など、どの段階においても、LRQAは信頼性のある保証・検証サービスを提供し、データへの信頼性を高め、利害関係者の期待に応える支援を行います。

私たちは、すべての組織が異なるサステナビリティの道を歩んでいること、そして直面するリスク・規制・報告課題もそれぞれ異なることを理解しています。年間20,000件以上の審査・検証実績を持つLRQAの専門家が、複雑化するサプライチェーン全体にわたって、気候報告の信頼性向上を支援します。

LRQAの特徴

グローバルな展開力

世界各国におけるローカルな専門知識と、拠点やサプライチェーン全体にわたる一貫したサービス提供

柔軟なサービス提供

現地訪問でもリモートでも、自社の業務やスケジュールに合わせて柔軟に対応

確かな信頼性

国際的な基準や枠組みの策定にも関与する、信頼される検証パートナー

サステナビリティを最優先に

GHGやサプライチェーンデータに関する深い専門性を持つ、世界有数のESG保証プロバイダー

61,000+
グローバル顧客数

900+
ESG専門家

5,000+
従業員数

営業地域
150+
展開国数

透明性を高め、ESGの企業目標を達成し、利害関係者の信頼を構築するために、LRQAによる独立した検証と報告保証をご活用ください。

ESGおよび検証サービスの詳細はこちらをご覧ください

LRQAについて

LRQAは、審査、アドバイザリー、検査、サイバーセキュリティサービスにおける数十年にわたる比類のない専門知識を結集した、世界有数の保証パートナーです。データ主導の洞察力を基盤として、お客様の最大のビジネス課題の解決を支援しています。

150カ国以上で5,000人以上のスタッフが活動するLRQAは、受賞歴のあるコンプライアンス、サプライチェーン、サイバーセキュリティ、ESGの専門家が、ほぼすべての業種にわたる60,000人以上のクライアントが事業を展開するあらゆる場所で、リスクの予測、軽減、管理を支援しています。

LRQAは、あらゆる業務において、従業員、お客様、地域社会、そして地球環境のより良い未来の実現に尽力しています。

お問い合わせ

詳細については、**lrqa.com/ja-jp** をご覧ください。

LRQA リミテッド
〒220-6010
横浜市西区みなとみらい2-3-1
クイーンズタワーA10 階

LRQA は、LRQA Group Limited およびその子会社の商号です。詳細については**www.lrqa.com/entities** をご参照ください。
© LRQA Group Limited 2025